

# 野田・九条通信

2005年10月2日  
NO. 3  
「野田・九条の会」事務局  
TEL 7122-0502

九月月例会△△の報告

## 好評だった 早乙女勝元氏の講演

九月月例会は、都合のつかない方が多く、第三主曜日の17日に開催しました。

最初に事務局から、八月に行なわれた「終戦60周年記念講演会」の概要が報告されました。

当日は、会場要員を含めて約三百人の参加があったこと、カンパもたくさん戴き黒字になったこと、五人に一人が会場でアンケートを書いてくれた「大変良かった」の感想がほとんどだったこと、そして賛同者が三十七一人まで増えたことなどの報告がありました。

選挙の結果から もっと運動の広がりをも

●「野田」としては、講演会で三百人は集まった方ではないか。評価しても良いのではないか」

●「多くの人が『戦争を

起こしてはいけない」との想いを持っている。もっと集めなければならぬのでは」



次の企画について 話し合い具体化を

次に「野田九条の会」として、どんな取り組みをするのが話しあわれ

## 九条への想い 武智 多恵子(前子ども劇場千葉県センター理事長) 子どもを守る 「憲法九条」の実施こそ

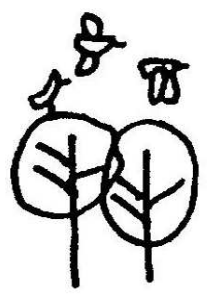
私は六十年前の小学校三年のとき、台湾の高雄市で終戦を迎えました。

ヒロシマに原爆が投下された半年後に、広島の子品港に引き上げ船で着きました。台湾での生活、小学の二、三年の経験は生涯忘れることはないと思います。

夜中にB29の飛行機の音で目が覚め防空壕へ兄と逃げ込み、ガタガタ震

える体を押さえることが出来ないほどの恐怖でした。戦争が激しくなるにつれ山奥まで逃げ、力エルや芋がらなどを常食にし、マラリヤ病や栄養失調で生死をさまよい、今でも当時を思うと心がすくみず。それでも、家族全員引き上げることが出来たことは、奇跡的でした。

今年、兄と現地に行き



## 講演者△△ 参加者の声

◎「人形劇があの日を思い出させ、涙をさそうものだったと思います」

◎「時代の流れに流されて行った無力な一般の人々の悲しみ、くやしさを感じました」

◎「しっかり歴史を知ることの大切さを実感した」

◎「戦争の悲惨さを知らせ、改憲させないよう運動を広げたい」

◎「次回は娘も連れてきたい。武力では何も解決しないと事、良くわかりました」

◎「自分でも、何かしなければ：無力ではないのだから、と心から思います」

◎「力をもらった。自分に何が出来るか考える」

◎「素晴らしいお話でした。できるだけ多くの人に『九条の会』のことを広めて行きたいと思っています」